

鹿児島地域 地域振興の取組方針 (案)

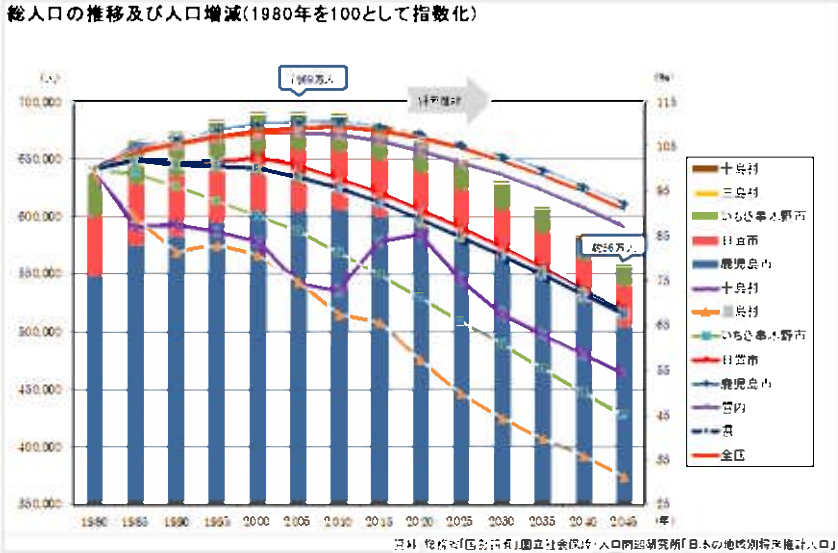
第 1 章 時代の潮流と鹿児島地域の現状・課題

1 人口減少・少子高齢化の進行

(1) 総人口の推移

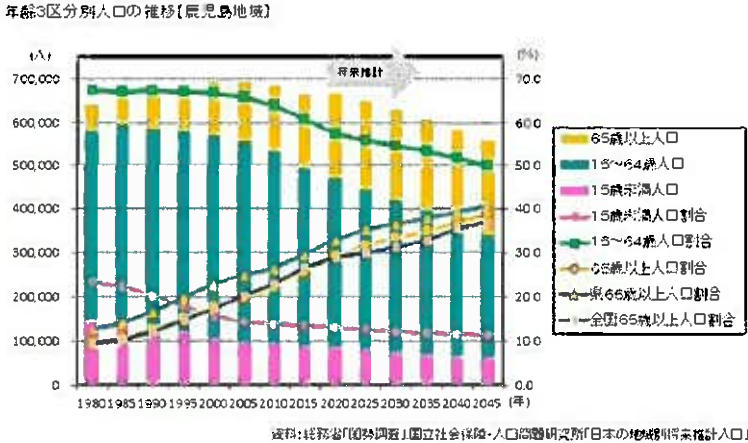
我が国の総人口は、2015年国勢調査において、同調査開始以来初めて減少に転じ、人口減少社会が到来しました。

当地域の総人口は、2005年の約69万人をピークに減少局面に突入しており、2015年には約68万人、2025年には約3万人減の約65万人に、そして2045年には約9万人減の約56万人になることが推測されています。



(2) 年齢別人口構成

年齢3区分別人口の推移では、15歳未満人口（年少人口）の割合は、2015年に13.5%であったものが、2025年には12.7%、2045年には11.4%に減少することが予想されており、15歳以上65歳未満人口（生産年齢人口）の割合は、1990年の67.1%をピークに、2025年は55.6%、2045年には49.9%と減少することが予想されています。また、65歳以上人口（老年人口）の割合（高齢化率）は、2015年は25.8%であったものが、2025年には31.7%に、そして2045年には38.7%になると推測されています。



当地域においても、生産活動に留まらず、医療、福祉、観光、さらに伝統芸能などのあらゆる分野において、少子高齢化の進行に伴う後継者不足があり、将来のあり方を懸念する声が聞かれます。

## 2 地域の産業構造の状況

当地域では、経済、教育、文化、行政など様々な都市機能が集積する鹿児島市の存在が大きく影響しており、産業別就業人口及び生産額ともに、第3次産業の構成比は県全体より高くなっている一方、第1次・第2次産業の構成比は県全体より低くなっています。

産業別就業者数

市町村	就業者数	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
		人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
鹿児島市	289,760	3,598	1.4	40,048	15.4	216,355	83.2
日置市	21,683	1,358	6.3	5,208	24.1	15,063	69.6
いちき串木野市	13,289	774	5.8	3,728	28.1	8,757	66.0
三島市	195	38	19.5	27	13.8	130	66.7
十島市	385	113	29.4	64	16.6	208	54.0
管内計	305,312	5,881	2.0	49,073	16.6	240,513	81.4
県全体	753,855	70,249	9.5	143,838	19.4	525,808	71.1
管内計/県全体	40.6%	8.4%	-	34.1%	-	45.8%	-

※1. 観光業(観光業)  
 ※2. 観光業には、「分業不備の観光」を含む。  
 ※3. 「分業不備の観光」はどの産業にも分類されなかったため、なお、観光の算出においても、分業から「分業不備の観光」を除いている。

産業別総生産額

市町村	総生産額	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
		実績	構成比(%)	実績	構成比(%)	実績	構成比(%)
鹿児島市	1,938,103	7,152	0.4	211,839	10.9	1,705,470	88.0
日置市	126,234	3,438	2.7	32,281	25.6	89,625	71.0
いちき串木野市	93,389	3,933	4.2	31,122	33.3	57,678	61.8
三島市	1,682	56	3.3	635	37.7	980	58.3
十島市	3,706	138	3.7	1,992	53.8	1,550	41.8
管内計	2,163,114	14,716	0.7	277,870	12.8	1,855,301	85.8
県全体	5,388,480	245,854	4.6	1,071,112	19.9	4,033,583	74.9
管内計/県全体	40.1%	6.0%	-	25.9%	-	46.0%	-

※1. 鹿児島市統計室「2015年度市町村別経済調査」  
 ※2. 鹿児島県統計室「2015年度市町村別経済調査」  
 ※3. 「分業不備の観光」はどの産業にも分類されなかったため、なお、観光の算出においても、分業から「分業不備の観光」を除いている。

このような中で、県全体の約6割を占める商業(卸売業及び小売業)では、2016年の年間商品販売額は2004年より991億円減少しています。

また、製造業では、2016年の製造品出荷額は2006年より約290億円増加しており、業種別では食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業の割合が高くなっています。

観光面では、2011年3月の九州新幹線全線開業を契機に、主要観光地を中心に関西・中国地方からの観光客が増加したところ

です。また、直行便やLCCの就航により、台湾・香港などからのインバウンド<sup>※1</sup>が増加しています。

2017年の観光統計によると、当地域の観

商業・工業

市町村	商業			工業		
	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
鹿児島市	6,103	53,636	2,604,953	532	12,128	375,730
日置市	464	2,862	54,278	93	2,493	46,265
いちき串木野市	317	1,564	29,934	64	2,257	67,275
三島市	6	10		1	10	
十島市	6	17		0	0	
管内計	6,896	58,089	2,689,164	690	16,888	489,270
県全体	17,439	117,406	4,194,068	2,423	69,539	2,054,700
管内計/県全体	39.5%	49.5%	64.1%	28.5%	24.3%	23.8%

※1. 経済産業省「延べ客数(2016年)」  
 ※2. 鹿児島県統計室「2016年度市町村別経済調査」

観光入込客数の推移及び増減(2015年を100として指数化)



資料: 市町村観光入込客数統計、市町村の発表

※1. インバウンド: 外から入ってくる旅行。

光入り込み客数は、1,089万人ですが、そのうちの約9割に当たる998万人が鹿児島市に集中していることから、今後は、鹿児島市外へ観光客を周遊させる取組を進める必要があります。

### 3 高度情報化・技術革新の進展

スマートフォンなどの普及により、誰でも手軽で迅速に双方向で情報を受発信することができる「ソーシャルメディア」が社会生活の基盤となりつつある現在では、個人から国内外への広範な情報発信が可能となり、一人ひとりを「メディア」として捉える情報戦略の必要性が高まっています。

I o T<sup>1)</sup>、A I<sup>2)</sup>などの技術革新は、私たちの生活形態や企業等の経済活動に大きな変容を生じさせると同時に、生活の利便性や経済活動における生産性の向上等への寄与が期待されることから、これらに対応できる人材育成を図りながら、積極的・効果的に活用することが望まれます。

こうした中、本県のブロードバンドサービス世帯普及率は低く、当地域においても、離島地域や中山間地域などの採算性の厳しい条件不利地域においては、民間主導による整備が進んでいない状況にあることから、これらの地域に情報格差が生じないようにする必要があります。

一方、当地域には、搾乳ロボットやスマートフォン活用による環境制御技術などを導入したスマート農業<sup>3)</sup>、「テレビ会議システム」やSNS<sup>4)</sup>を活用した情報交換を通じて技術支援を行った先進的な事例が見られ、今後幅広く普及されることが期待されています。

### 4 環境問題・エネルギー

#### (1) 環境問題

当地域は、霧島錦江湾国立公園や吹上浜とトカラ列島の2つの県立自然公園など、多様で豊かな自然環境を有しています。

また、吐噶喇列島の悪石島と小宝島の間には、温帯系と亜熱帯系の生物群の境界となる「渡瀬線」が横切っており、日本列島に生息する多くの種の分布の北限・南限の地とされる鹿児島の生物多様性を特徴付けています。

こうした恵まれた自然環境や豊かな生物多様性を保全することは、長い歴史の中でこれらに根ざして形成されてきた食や文化など地域独特の魅力を維持、向上させる上

×1 「モノのインターネット」(I o T)：コンピュータやスマートフォンなどの情報通信機器に限らず、すべての「モノ」がインターネットにつながること。Internet of Things の略。

×2 「人工知能」(A I)：知的な機械。特に、知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術。

×3 スマート農業：ロボット技術やI C Tを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業。

×4 SNS：FaceBook(フェイスブック)、Twitter(ツイッター)、LINE(ライン)、Instagram(インスタグラム)など、ネット上で人と人とのつながりを維持・促進する様々な機能を提供するサービス。Social Networking Serviceの略。

で不可欠であり、次世代に引き継いで行く必要があります。

近年、地球温暖化の影響により、集中豪雨の頻度や猛暑日の増加、海面水温の上昇に伴う台風の大型化などの事象が生じており、大規模災害の発生、健康・生命への危険が想定されるようになってきています。

当地域は、県内人口の約4割を擁し、多くの事業所が立地していることから、その社会経済活動に伴い、大量の温室効果ガス<sup>1</sup>や廃棄物を排出していると考えられます。

このため、率先して温室効果ガス排出削減対策、多様で健全な森林づくりによるCO<sub>2</sub>吸収源対策、廃棄物の発生抑制、再使用、再生利用（3R）、再生可能エネルギー<sup>2</sup>の積極的な導入など、環境への負荷をできる限り低減させる取組が求められます。

鹿児島市においては、温室効果ガス排出量の削減、中心市街地の回遊性の向上、観光の振興を図るため、コミュニティサイクル「かごりん」を導入しています。



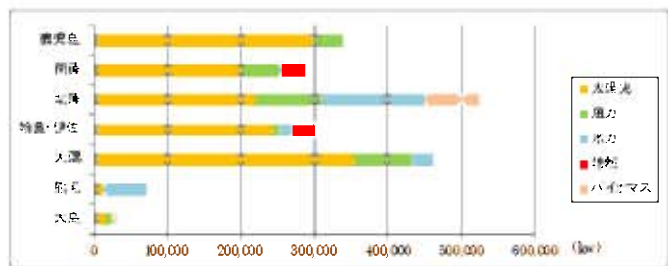
かごりん

また、大規模災害発生時に排出される膨大な災害廃棄物を迅速かつ適切に処理するための備えも必要とされています。

## (2) 再生可能エネルギー

当地域における再生可能エネルギーによる発電量は、2016年度末で340,555kwとなっており、そのうち太陽光が297,982kwで全体の87%を占めており、今後はバイオマス<sup>3</sup>などの安定的な発電の導入が求められます。

地域別再生可能エネルギー導入量の構成（発電分野）（2016年度末）



資料：県企画部

2017年には、民間事業者により、口之島沖で我が国初の海流発電の実証試験が行われ、一定の発電に成功したことから、今後、長期運転試験が行われる予定です。また、2018年には、鹿児島市南部地区で県内産材を燃料の一部とする出力49,000kwの木質バイオマス発電施設が稼働する見込みです。

鹿児島市は、生ゴミ等からバイオガスを発生させ、都市ガスの一部として提供する計画を進めています。

日置市といちき串木野市は、民間事業者と共同で電力会社を設立し、太陽光、水力で発電した電力の地産地消に取り組むとともに、得られた収益の一部を地域活性化や市民サービス提供のための資金として提供しています。

※1 温室効果ガス：二酸化炭素、メタンガス、フロンガスなどの温室効果を持つ大気中に拡散された気体。

※2 再生可能エネルギー：石油・石炭などの限りあるエネルギーに対して、一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーの総称。

※3 バイオマス：再生可能な、生物由来の有機性資源（化石燃料は除く）のこと。

## 5 価値観・ライフスタイル等の変化

全国的に晩婚化が進むとともに、生涯未婚率<sup>※1</sup>も上昇している中、当地域においても同様の傾向にあると推定されます。

3市2村の合計特殊出生率<sup>※2</sup>は概ね全国を上回るものの、県全体よりは低く、鹿児島市では全国を下回っています。

また、働く女性の割合は増加しており、女性の社会進出が進んでいることがうかがわれます。当地域の女性の労働力についても、2015年国勢調査において「主に仕事（就業者）」と回答した女性の割合は、1995年と比べると、34.6%から44%に上昇しています。（1995年及び2015年総務省「国勢調査」就業状態等基本集計）

三島村、十島村では、移住者受け入れを積極的に行い、手厚い支援策もあって年で増減はあるものの、一定数の移住者を確保しています。

移住者へのアンケート結果によると、「居住先を決める際に意識したこと」として、

いずれの村も「山や緑、水など自然が豊か」という回答が最も多くなっており、都会生活ではなく自然に恵まれた地域で暮らしたいという価値観を持った人たち



シュノーケリング(硫黄島)



口之島 フライ岳からの展望

の受け皿としての役割を担っています。

単身世帯の増加や地域における連帯感の希薄化などにより、単独の自治会では問題解決が困難な状況が見られる中で、小学校区等を単位での「コミュニティ・プラットフォーム<sup>※3</sup>」づくりが進められつつあります。

地域住民が主体的に地域課題の解決に取り組む上で、リーダー的存在や住民同士の協力は不可欠ですが、地域によっては、リーダーの不在、住民の無関心などの実態も指摘されており、地域活動等の活性化に向けた取組が求められます。



※1 生涯未婚率：50歳時点で一度も結婚したことがない人の割合。

※2 合計特殊出生率：15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年の年齢別出生率で一生の間に生むとした場合の子ども数に相当。

※3 コミュニティ・プラットフォーム：市町村の区域を、小学校区などの一定の区域に分け、地域の住民代表的な組織をつくり、そこに財源や権限を移譲し、自主的な地域課題解決活動を推進していく住民自治の組織手法。

## 第2章 鹿児島地域のポテンシャル

### 1 豊かな自然環境

当地域は、薩摩半島の中央部に位置する3市と、薩摩半島の南西に位置する三島村、奄美大島に連なる7つの有人離島が点在する十島村からなり、県土の半分に当たる南北300キロメートルの広がりを持っています。

3市は、東側に桜島、錦江湾を望み、西側には「日本三大砂丘」の一つで白砂青松の吹上浜によって東シナ海に面しており、それぞれの地域は国立公園、県立自然公園に指定されています。

三島村黒島、十島村宝島には国指定天然記念物の森林植物群落があるほか、渡瀬線で区分される亜熱帯と温帯の生物群が見られます。

また、日常的に噴煙を上げる桜島、諏訪之瀬島をはじめ5つの活火山が存在するとともに、多様で豊富な温泉資源に恵まれているほか、桜島・錦江湾や鬼界カルデラの二つのジオパークが日本ジオパークとして認定されています。



桜島とマリナーポート



吹上浜



東温泉(硫黄島)

### 2 地理的優位性

当地域は、県都鹿児島市を擁し、商業、文化、アミューズメント機能、オフィス、官公庁等の様々な都市機能が集積し、人・物・情報の交流拠点として重要な役割を担っています。

また、北部九州や関西圏との時間的距離を格段に短縮した九州新幹線をはじめ、九州縦貫自動車道、南九州西回り自動車道などの高速交通網、離島航路の発着機能を持つ鹿児島港が整備されているとともに、国際線を有する鹿児島空港とは短時間に結ばれるなど、陸・海・空の交通結節点としての機能を備えています。

なお、当地域の3市に始良市を加えた4市においては、鹿児島市を圏域の中心市として、地域の一体的かつ持続的な発展を図るため、「かごしま連携中枢都市圏<sup>1)</sup>」の形成が進められています。

<sup>1)</sup> 連携中枢都市圏：地域において、相当の規模と中核性を供える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢化社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を旨として、連携協約を締結することにより形成される圏域。

### 3 安心・安全で豊富な“食”

当地域では豊かな自然環境を生かして、良質で多様な農林水産物を育てており、2017年度に第11回全国和牛能力共進会<sup>1</sup>で日本一に輝いた「鹿児島黒牛」や「かごしま黒豚」、「かごしま地鶏」、「桜島小みかん」、「かごしまのマンゴー」、「かごしま茶」がかごしまブランド<sup>2</sup>となっています。



このほか、野菜では、ねぎ、いちご、にがうり、ほうれんそう、果実では、温州みかん、ほんかん、びわなど多様な園芸作物が生産されているほか、島バナナやアボカドなど新たな品目や、レストランからの需用に対応して西洋野菜を栽培する事例もあります。

農産物の生産工程を管理し、その履歴を記録して、安心・安全を確保するためのGAP<sup>3</sup>の認証に取り組んでおり、グローバルGAPなどの国際水準認証を取得する動きが見られます。

林産物では、三島村・十島村で大名たけのこ、本土地域で原木しいたけや早掘りたけのこが生産されています。

水産物では、鹿児島市の養殖ブリやカンパチ、日置市やいちき串木野市のちりめんじゃこ、いちき串木野市のまぐろが特徴的なほか、三島村・十島村では、一本釣りや刺網漁業などにより多様な魚種が水揚げされています。

### 4 個性ある歴史と多彩な文化

当地域は、島津氏の城下町として発展してきた歴史を有し、幕末には、薩摩藩11代藩主（島津家第28代当主）となった名君斉彬公が、集成館事業に着手し、島津家の別邸であった「仙巖園」の隣接地に当時日本最大規模の工場群「集成館」を築きました。2015年には、旧集成館を含む遺産群が、寺山炭窯跡や関吉の疎水溝などの他の22の構成資産とともに「明治日本の産業革命遺産」として、世界文化遺産に登録されています。

また、薩摩藩は、現在のいちき串木野市羽島から薩摩藩英国留学生を英国に向けて出航させました。地元では、留学生の功績を後世に伝えるために毎年「黎明祭」を開催し、2014年には、「薩摩藩英国留学生記念館」を開設しています。

近代国家・日本の形成に大きく寄与した西郷隆盛、大久保利通、小松帯刀など多くの偉人を輩出しているほか、産業・経済・学術などさまざまな分野に優秀な人材を送り出しています。こうした幕末の混乱期に未来を切り開いた若者を育てた教育的風土や、地域全体で子どもたちを育てるといった伝統的な地域の教育力は継承されています。

※1 全国和牛能力共進会：和牛日本一を決めるため、5年ごとに開催される和牛の品評会。全国のブランド牛を一堂に集めてその優秀性を競い、審査は牛の姿、形を審査する「種牛の部」と和牛の肉質を審査する「肉牛の部」で実施。

※2 かごしまブランド：安心・安全はもとより品質面、出荷数量面で一定基準を満たした農産物のこと。

※3 GAP（農業生産工程管理）：農業生産活動を行う上で必要な関係法令等の内容に則して定められる点検項目に沿って、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動のこと。



尚古集成館



薩摩藩英国留学生記念館



妙円寺詣り

鹿児島三大行事の一つとされる「妙円寺詣り」は、島津家第17代当主義弘公が、関ヶ原の合戦で東軍を突破し鹿児島まで生還した「関ヶ原の退き口」を偲んだ祭りとして現代まで受け継がれています。

また、本県は、いわゆる大和文化圏と琉球文化圏との接点であったことも影響し、民俗の宝庫と言われるほど個性豊かな祭礼行事や民俗芸能が存在し、「市来の七夕踊り」、「薩摩硫黄島のメンドン」、「悪石島のボゼ」は国の無形民俗文化財に指定されています。

このうち、「薩摩硫黄島のメンドン」と「悪石島のボゼ」は、他の国内8件とともに、「来訪神：仮面・仮装の神々」として、2018年〇月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。(見込み)



薩摩硫黄島のメンドン



悪石島のボゼ

伝統産業では、丹念で緻密な染めと織りで名高い絹織物の逸品「本場大島紬」、400数十年の伝統を守りながら製作する「薩摩焼」が指定されており、県の伝統的工艺品として、集成館事業の一環として生まれた「薩摩切子」などが指定され、生産が行われています。



本場大島紬



薩摩焼



薩摩切子



## 5 優しく温もりのある地域社会

本県のNPO法人数は、人口当たり全国3位と高い水準にあります。当地域内には、県内の約5割を占める法人が設立されており、様々な地域課題の解決に向けた取組を行っています。

日置市の高山地区においては、地域の全住民が会員となるNPO法人を設立し、地域ぐるみでの生産物共同出荷、買い物代行、見守り活動等に取り組んでいます。これらの活動が高く評価され、高山地区公民館は2017年度「過疎地域自立活性化優良事例表彰」の「総務大臣賞」を受賞しています。



高山の集配用保冷車

鹿児島市では、交通安全、高齢者の安全、学校の安全、こどもの安全、DV防止、自殺予防、防災・災害対策の重点7分野でセーフコミュニティ<sup>※1</sup>を推進しており、セーフコミュニティ国際認証を取得しています。

## 6 地域資源等を活用した個性ある産業

県内では、恵まれた自然環境を生かして生産された多くの一次産品が、地域資源としての価値を有し、当地域では、これらの一次産品を活用して様々な事業を展開しており、特に農林水産物を活用した食品製造業のシェアが高くなっています。

また、農業者などが、加工や販売に取り組むことで、新たな付加価値を取り込んでいく6次産業化を図る事業を展開しております。

鹿児島地域の地域産業資源活用事業計画の認定状況

事業名	地域資源【3類型】	所在地	企業名
さつま町産南高梅、さつまいも(種子島紫原種いも)を活用した、オリジナル商品の開発と販路開拓	うめ、さつまいも【農林水産物】 黒酢(天然赤づくり米酢)、黒糖、海洋深層水【産地技術】	鹿児島市	株式会社 風月堂
新規焼酎製造法による新タイプ芋焼酎の創出と副産物の食品素材化	さつまいも【農林水産物】 鹿児島島の焼酎【産地技術】	日置市	西酒造 株式会社
希少価値の屋久杉を活用した、身につける屋久杉「Jewelry Wood」(ジュエリーウッド)の開発と販路拡大	屋久杉【農林水産物】 屋久杉製品【鉱工業品及びその生産技術】	鹿児島市	株式会社 山王産業
普通シラスから製造した「高強度シラスバルーン[マグマバブルス]」の開発と販路開拓	シラス(火山噴出物) 【鉱工業品及びその生産技術】	鹿児島市	株式会社 プリンシプル
屋久杉染や紫芋染などによる明るい大島紬の製品と、和・洋の商品開発及び販路開拓	本場大島紬【鉱工業品及びその生産技術】 屋久杉、さつまいも【農林水産物】	鹿児島市	洋田織物 株式会社
鹿児島県養殖魚の内臓を有効活用した「本鮪ほるもん」等の商品開発と販路拡大	マグロ、ブリ、カンパチ【農林水産物】	鹿児島市	株式会社 YSフーズ
全国初、納豆屋が造る納豆加工食品の開発と販売	納豆【鉱工業品】	鹿児島市	株式会社 しか屋

資料：県商工労働水産部

※1 セーフコミュニティ「事故やけがは原因を調べ対策を行うことにより、予防できる」という考えのもと、身近で起こっている事故やけがを予防する取組のこと。

六次産業化・地域地消法認定総合化事業計画一覧

認定年月	事業名	事業の概要	事業者	市町村
2011年 10月	食料リサイクルによる環境型自社農場の黒豚を利用した加工・販売事業	自社牧場産の黒豚の挽き肉を使った業務用商品を開発し、飲食店への卸販売の他、催事等での直売をすることによって生産から食卓までの一貫販売を構築し、農業経営の改善を図る。また、豚の耳や皮・毛など流通量が少ない部位に付加価値をつけて、鹿児島島の新しい特産品として販売展開していくことで、鹿児島県の畜産業と経済活性化に貢献する。	有限会社 ノグミ産業	鹿児島市
2013年 05月	鹿児島県における第三の黒[黒さつま鶏]を使った炭火焼、焼製の加工・販売事業	自ら生産したブランド地鶏「黒さつま鶏」を活用した炭火焼、焼製の新商品の開発・製造を行い、各社経由で販売展開することで売上拡大を図るとともに、経営の多角化、高度化を図る。	株式会社 NSファーム	鹿児島市
2015年 12月	自社グループ・地域(南九州)畜産農家で生産された牛肉を提供する多様な外食業態の経営	鹿児島県を中心とする南九州の畜産事業者が、パートナーである商社、飼料製造会社、食品製造会社等のノウハウを活用して、エサ作りから繁殖、肥育まで一貫生産した黒毛和牛等を提供する外食事業等を拡大し、牛肉をはじめとした地域の農畜産物の付加価値向上を図りつつ、持続・発展可能な循環経営の構築を目指す。	株式会社 ピースマイルプロジェクト	鹿児島市
2018年 02月	有機JAS野菜を100%使ったレストラン、有機JAS野菜の対面販売及び有機JAS野菜を使ったジュース、冷菓、ケーキの製造・販売	有機JAS野菜を100%使用した料理で、野菜を主役としたメインの料理、ごはん・麺、サラダ、スープをお客様が1品ずつセレクトして提供する新形態のレストラン、有機JAS野菜を使ったジュース、乾炭にんじん、冷菓、ケーキの製造販売と、直売所に菜園士を常駐させ消費者に有機JAS野菜の菜園、料理等のアドバイスする直接販売を行う。 総合化事業の取組により、異なる経営の多角化を図り、自ら生産する有機JAS野菜の付加価値をより高め、農業並びに関連事業の所得の向上を図るとともに、経営の安定と新たに雇用を創出する。	農業生産法人そのやま農園株式会社	鹿児島市

資料 県農政部

三島村では、2017年に「みしま村芋焼酎特区」の認定を受け、翌2018年に村営焼酎蔵を整備し2019年に初出荷する予定です。



三島村の焼酎

## 7 豊富な「ウェルネス」(健康・癒やし・長寿)素材

当地域は、豊かな自然、安心な農林水産物、ウォーキング、マラソンやマリンスポーツ等の健康づくりに適した環境など、世界に通用する「健康・癒やし・長寿」に役立つ様々な地域資源に恵まれています。

例えば、桜島・錦江湾や鬼界カルデラなどの雄大な自然、吹上や湯之元をはじめとした温泉、かごしまブランドである桜島小みかん、マンゴーなどの安心・安全な農林水産物があります。

また、桜島・錦江湾では、海中温泉探検、シーカヤック、イルカウォッチング、硫黄島では、硫黄を使った線香花火作りなどを楽しむことができます。

さらに、西郷さんの足跡を辿る「西郷どんの遠行」、薩摩街道ウォーキング大会、鹿児島マラソン、吐噶喇列島島めぐりマラソン、ミシマカップヨットレースが毎年開催されるほか、江口浜にサーフィンなどに適した環境があります。

鹿児島市郡山町の甲突池は、鹿児島市内を流れる甲突川の源流で、平成の名水100に選定されており、同町八重地区、日置市尾木場集落やいちき串木野市荒川地区大河内などには、山間部に棚田が広がっています。また、尾木場集落には珍しい在来種の黒メダカ、荒川川・花川付近などにはホタルが生息しています。



甲突池



EATde(いーとで)健康メニュー

いちき串木野市では、糖尿病や肥満の予防・改善などを目指した外食メニューとして、「EATde(いーとで)健康メニュー」を開発しています。

世界的規模で健康志向が高まる中、これら「鹿児島のウェルネス」は、地域住民の「健康・癒やし・長寿」に資するとともに、国内外に効果的に発信することにより、地域のブランド力の向上や、様々な交流を促進する原動力となる可能性を有しています。

## 第3章 分野別の取組方針

### 1 南北300kmにわたる特性に応じたまちづくり

#### (1) 個性を生かした地域づくり

- ・ 中山間地域等において、将来にわたって暮らし続けることができるよう、集落の枠組みを超え、広域的に支え合う仕組みづくりを促進します。また、買物弱者支援をはじめ生活サービス機能の集約・確保等を促進します。
- ・ 農村集落とNPOなどの多様な主体が協働で取り組む「共生・協働の農村づくり」を推進し、日本型直接支払制度を活用して農地や農業用施設の保全などの取組を促進します。
- ・ 地域づくりの多様な担い手の確保・創出等に向け、グリーン・ツーリズム<sup>※1</sup>、ブルー・ツーリズム<sup>※2</sup>などの地域と地域外の住民との交流、連携等の取組を促進します。
- ・ 「コミュニティ・プラットフォーム<sup>※3</sup>」の機能が相乗的に高まるような取組を促進するとともに地域のニーズや資源を踏まえながら、積極的に地域活動に取り組むリーダーやコーディネーターの人材育成を促進します。
- ・ 大都市圏等から当地域への人の流れをつくるため、移住に関する情報の発信や相談対応等の充実など、市村や関係団体等と連携して、県外からの移住を促進します。
- ・ 地域ブランドや地場産業の開発、販売、PR等の活動を行う地域おこし協力隊制度を活用する市村の取組を支援します。
- ・ 県都鹿児島市を圏域の中心市として地域の一体的かつ持続的な発展を図るため、かごしま連携中枢都市圏構想を促進します。

#### (2) 暮らしが潤い世界につながる県土の創造

- ・ 光ファイバ等の超高速ブロードバンドや第5世代移動通信システム（5G）<sup>※4</sup>などの情報通信基盤について、国、市村及び事業者と連携しながら整備を促進するとともにICTの活用について情報収集し、普及を促進します。
- ・ 地域高規格道路<sup>※5</sup>である鹿児島東西幹線道路及び渋滞解消に寄与する国道10号鹿児島北バイパス等の主要国道事業の整備を促進します。
- ・ 指宿スカイラインについては、地域の活性化や産業・観光振興の観点から、山田インターのフルインター化等、利用しやすい環境づくりに取り組みます。

※1 グリーン・ツーリズム：農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

※2 ブルー・ツーリズム：島や沿海部の漁村に滞在し、魅力的で充実したマリナライフの体験を通じて、心と体をリフレッシュさせる余暇活動の総称。

※3 コミュニティ・プラットフォーム：市町村の区域を、小学校区などの一定の区域に分け、地域の住民代表的な組織をつくり、そこに財源や権限を移譲し、自主的な地域課題解決活動を推進していく住民自治の組織手法。

※4 第5世代移動通信システム（5G）：超高速を実現するだけでなく、多数同時接続や超低遅延といった、従来技術にない特徴を有しており、全てのモノがインターネットに接続されるIoT時代に不可欠な基盤技術として期待されている。

※5 地域高規格道路：高規格幹線道路を補完し、地域の自立発展や地域間の連携を支える自動車専用道路又はこれと同等の規格を有する道路として指定される道路。

- ・ 朝夕のラッシュ時の渋滞解消を図るため、鹿児島市中心部と市街地近郊を結ぶ県道などの整備を推進します。
- ・ 「国際旅客船拠点形成港湾」である鹿児島港の本港区北ふ頭及びマリポートかごしまにおいて、クルーズ船の受入環境整備を着実に推進するとともに、臨港道路（鴨池中央港区線）の整備を促進し、物流・人流の更なる活発化を図ります。
- ・ 橋梁・トンネル、河川・砂防、港湾・漁港などの個別施設ごとに策定する長寿命化計画に基づき予防保全対策などを計画的に実施し、長寿命化によるトータルコストの縮減、平準化を図り、公共土木施設の適切な維持管理に努めます。

### (3) 安心・安全な県民生活の実現

- ・ 災害発生時における道路交通の機能を確保するため、必要な道路整備や無電柱化を行うとともに道路や港湾などの緊急輸送道路ネットワークの強化を図ります。
- ・ 河川の寄洲<sup>※1</sup>除去や治山施設の整備など、河川災害、山地災害<sup>※2</sup>、土砂災害、高潮・侵食被害、農地・農業集落等における災害の未然防止対策としてハード対策を推進するとともに、水位雨量情報や土砂災害警戒情報の提供、土砂災害警戒区域等の指定などソフト対策の両面から推進します。
- ・ 既に策定されている桜島の火山噴火緊急減災対策砂防計画<sup>※3</sup>に加え、新たに火山災害警戒地域を有する硫黄島、諏訪之瀬島について、同計画を策定します。  
また、桜島火山爆発総合防災訓練等を通じて、市村、関係機関との情報伝達や避難体制の連携強化を図ります。
- ・ 原子力防災について、避難計画や原子力防災訓練などの見直しを進めるとともに、原発の安全性や原子力防災に関するわかりやすい情報発信に取り組めます。
- ・ 当地域内の市村が、自ら被災市村になることを想定した「市町村災害廃棄物処理計画」の策定を促進します。
- ・ 地域住民が互いに助け合って地域の安全を確保し、災害に強い地域社会を実現するために、住民による自主防災組織の結成促進・活動活性化に取り組むとともに「地区防災計画」制度の普及・啓発を図ります。
- ・ 健康危機事象が発生した場合には、被害者の医療の確保や被害の拡大の防止等の対策を実施します。また、健康相談やこころのケア等、被害を受けた人の支援に取り組めます。
- ・ 特殊病虫害や家畜伝染病の侵入警戒対策に取り組むとともに、口蹄疫<sup>※4</sup>や高病原性鳥インフルエンザ<sup>※5</sup>等の発生に対応する初動防疫体制の強化を図ります。

※1 寄洲：河口や海岸などに、土砂が風波で吹き寄せられてできた洲。

※2 山地災害：梅雨前線や台風等に伴う集中強雨による山くずれ、土石流、地すべりなどの山地に起因する災害。

※3 火山噴火緊急減災対策砂防計画：火山噴火時に発生が想定される溶岩流、火山泥流、土石流等の土砂災害による被害を軽減するため、地方整備局及び都道府県の砂防部局が策定するハード・ソフト対策からなる火山噴火時の緊急対応を定めた計画。

※4 口蹄疫：口蹄疫ウイルスが原因で、偶蹄類の家畜（牛、豚、山羊、綿羊、水牛など）や野生動物（ラクダやシカなど）がかかる病気。口蹄疫に感染すると、発熱したり、口の中や蹄の付け根などに水ぶくれができてたりするなどの症状がみられる。

※5 鳥インフルエンザ：鳥インフルエンザは、A型インフルエンザウイルスが引き起こす鳥の病気。家きんが高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染すると、その多くが死んでしまう。

- ・ 衛生教育等を通じて、食品の衛生管理や科学的知見に基づく正しい知識の普及を図ります。また、食中毒や食品の自主回収報告等の情報を速やかに提供し、食品衛生に係る注意喚起を図ります。
- ・ 自転車事故の少ないまちづくりの推進のため、安全な自転車通行区間の整備を図ります。
- ・ コミュニティ・プラットフォームを基盤とし、地域住民、団体、行政が連携し、安心・安全なまちづくりに向けた活動を促進します。

#### (4) 離島の魅力の発揮・振興

- ・ 三島・十島航路については、船舶建造等に対する支援や運賃軽減等を行うとともに、島内外を結ぶ航路の維持・充実などにより住民の負担軽減や利便性の向上を促進します。
- ・ 台風及び冬期風浪などによる波浪に対して、三島・十島航路の安全な接岸、係留を目的とした港湾・漁港の整備を図ります。
- ・ 手つかずの自然や「来訪神：仮面・仮装の神々」でユネスコ無形文化遺産に登録されている（見込み）「メンドン」や「ボゼ」に代表される独自の伝統・文化などを国内外に発信するとともに、訪れた観光客が集落等において、それらを体験できるような取組を推進し、交流人口の拡大を図ります。
- ・ 本土に比べ割高となっている三島・十島地域の農林水産物等の輸送コストに対する支援を行い、生産基盤の強化の促進を図ります。
- ・ 地域資源を活用した新商品の開発や商品の改良、販路開拓等を支援し、特産品の新たな需要の開拓を促進します。
- ・ 三島村の「しおかぜ留学」、十島村の「山海留学」など離島地域の特性を生かした山村留学の取組を促進します。

## 2 歴史・文化・食・技術を生かした地域産業

### (1) 人・モノ情報が盛んに行き交う鹿児島地域の実現

#### ① 国内外における戦略的なPRの展開

- ・ 当地域固有の食、自然、歴史、文化等多彩な魅力の掘り起こし、磨き上げを行うとともに、それらを生かした様々な切り口で国内外に情報発信することにより、認知度向上やイメージアップにつなげます。

#### ② かごしまの「食」などの国内外マーケットへの戦略的な展開

- ・ 企業の海外展開に対する支援の充実・強化を促進するとともに、海外ニーズに応じた商品づくり等を推進します。
- ・ 「かごしまブランド」、「かごしまのさかな」、「かごしま材」をはじめとする県産農林水産物について、マーケットニーズに応じた産地を育成するとともに、品目特性に応じたブランド化や高付加価値化を図ります。

#### ③ 観光維新鹿児島島の創造

- ・ 観光資源としてポテンシャルの高い国立公園・ジオパーク等の自然環境を持続的に活用する観光地づくりやツアープログラムの開発等を促進します。
- ・ 「明治日本の産業革命遺産」の構成資産などの世界遺産を活用した観光地づくりを進め、世界遺産の保全と地域の発展につながる「ヘリテージツーリズム<sup>※1</sup>」の構築を図ります。
- ・ 地域の観光資源の発掘に努め、自然や環境、歴史や文化、ウェルネスをテーマとするツーリズム等を促進します。
- ・ 鹿児島市が有する都市機能や動物園、水族館など学術機能を生かしながら、周辺地域への周遊ルート開発を促進するなど観光振興を図ります。
- ・ スポーツキャンプや各種大会等の誘致・PR活動に取り組むとともに、スポーツ施設の整備やスポーツを通じた人の流れづくりを進めます。
- ・ 県内プロスポーツチームの育成支援とスポーツを通じた交流の推進を図るため、ホーム戦における集客・賑わいの創出や、アウェイ戦における当地域のPR等の活動を促進します。
- ・ 錦江湾や桜島の美しい景観を望む鹿児島港本港区エリアにおいて、民間活力の導入を基本に、国際的な観光都市にふさわしい「来て見て感動する観光拠点」の形成を図ります。

## (2) 革新的技術の導入と競争力のある産業の創出・振興

### ① イノベーションの創出と競争力のある産業の振興

- ・ 産学官連携による技術・製品の研究開発を通じた既存事業の高度化・高付加価値化や地域特性を生かした産業の創出を促進します。
- ・ 各種データを正確に把握・分析して問題を解決する「データサイエンス<sup>※2</sup>力」を持つ人材の育成を促進します。
- ・ 起業に関する気運の醸成を図るとともに、県内外のビジネスマッチング等を通じて、若者や女性、県外からのUIターン者の起業の促進を図ります。
- ・ 当地域の主要産業である食品関連産業等における付加価値向上や人材の確保・育成等の取組を一層推進するとともに、地域資源を活用した産業の振興を図ります。

### ② I o T, A I等を活用したスマート農業等への挑戦

- ・ I o T, A I等を活用したスマート農業、I C T等を活用した林業・漁業の普及による生産性の向上に向けた取組を推進します。
- ・ 建設現場でのドローン等を用いた3次元測量、I C T建機による施工などI C Tを活用する「i-Construction」を推進します。

### ③ 鹿児島地域の特性を生かした農畜産業の生産体制づくり

- ・ 大消費地等におけるマーケットのニーズに的確に応えられる競争力のある産地の育成・強化、G A P（農業生産工程管理）の認証取得の拡大、地理的表示保護制度

※1 ヘリテージツーリズム：産業遺産を活用して、地域の産業・技術・生活文化を学ぶツーリズム。

※2 データサイエンス：ビッグデータを処理・分析し、そこから価値を創造するための新たな学問分野。

(G1)の活用を促進し、更なるブランド力の向上を図ります。

- ・ 需要に応じた米生産や、地域の特徴ある野菜の産地づくりなど、水田フル活用の取組を推進します。
- ・ 有機農業者等への技術支援や有機JAS認証<sup>1</sup>の取得促進などにより、有機農業を推進するとともに、IPM技術<sup>2</sup>の普及拡大や耕畜連携<sup>3</sup>等による環境と調和した農業を推進します。
- ・ 農地中間管理事業<sup>4</sup>の活用による担い手への農地の集積・集約の加速化を図るとともに、耕作放棄地の発生防止・解消を促進します。
- ・ 畑地かんがいによる農業基盤の整備や土地改良施設の長寿命化を推進します。また、集落道路などの整備を推進し、集落の快適性・利便性の向上を図ります。

#### ④ 中山間地農業の振興

- ・ 中山間地域の特性を生かし、収益性の高い農産物の生産・販売や6次産業化、観光等と連携した都市農村交流などを推進します。

#### ⑤ 県産材の利用促進・供給体制の強化と森林資源の循環利用の推進

- ・ 公共建築物等の木造・木質化、かごしま材を使用した家づくり、CLT<sup>5</sup>やツーバイフォー工法<sup>6</sup>部材の普及と利用、製材品等の輸出促進などにより、県産材の利用拡大と新たな木材需要の創出を図ります。
- ・ 森林施業の集約化、林道等の路網整備、高性能林業機械の導入などにより、低コストで効率的な作業システムの普及・定着等を促進し、林業の生産性の向上、県産材の安定供給体制の構築を図ります。
- ・ 木材の生産現場から製材工場等への直送やICT等の技術を活用した生産・流通の合理化などにより、需要者のニーズに対応した県産材を低コストで安定的・効率的に供給できる体制づくりを促進します。
- ・ 適切な間伐を推進するとともに、スギ・ヒノキ等の適地においては、伐採跡地の再造林<sup>7</sup>と計画的な保育を推進するなど、人工林資源の循環利用の定着化を図ります。

#### ⑥ 生産性・付加価値の高い特用林産物<sup>8</sup>の産地づくり

- ・ 地域特性を生かした「早掘りたけのこ」などの産地づくりを一層促進するとともに

※1 有機JAS認証：JAS規格制度の一つで、農業や化学肥料などの化学物質に頼らないで、自然界の力で生産された食品を表しており、農産物、加工食品、飼料及び畜産物に付けられている。

※2 IPM技術：総合的病害虫・雑草管理の略称で、利用可能な全ての防除技術（耕種的防除、物理的防除、生物的防除、化学的防除）の経済性を考慮しつつ、総合的に講じることで、病害虫・雑草の発生を抑える技術。

※3 耕畜連携：米や野菜等を生産している耕種農家へ畜産農家から堆肥を供給したり、逆に転作田等で飼料作物を生産し、畜産農家の家畜の飼料として供給する等、耕種サイドと畜産サイドの連携を図ること。

※4 農地中間管理事業：農地中間管理機構が、農地の所有者から農地を借受け、担い手がまとまりある形で農地を利用できるように配慮して貸付ける事業。

※5 CLT：ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネル。

※6 ツーバイフォー工法：木造の枠組材に構造用合板等の面材を緊結して壁と床を作る建築工法。枠組壁工法。

※7 再造林：人工的に育成した森林を伐採した跡地に再び造林すること。

※8 特用林産物：たけのこ、しいたけ、枝物、木・竹炭、竹材など、森林原野において産出されてきた一般用材を除く林産物の総称。



に竹材の供給体制の整備を促進します。

⑦ 持続的・安定的な漁業生産と本県水産物の販路拡大

- ・ 持続的・安定的な漁業生産を実現するために、TAC制度<sup>1</sup>等による資源管理の充実、マダイ、ヒラメ等有用種苗の放流などを推進します。
- ・ 串木野漁港では、港内静穏度の向上を図る防波堤の整備など、また、江口漁港では、漁船の大型化に対応した航路・泊地の浚渫等を行い、安心・安全で使いやすい漁港の整備を進めます。
- ・ 戸崎漁港では、漁業活動における用地不足の解消や軽労化を図る護岸や用地、浮き橋等の整備など、また、羽島漁港では、水産物等の輸送の効率化を図る臨港道路の整備を行い、漁業従事者の利便性向上を図ります。
- ・ 温暖で、養殖に適した海域が多い恵まれた特性を生かし、世界市場を見据えた養殖体制を確立するため、輸出に有利な人工種苗の導入などによる養殖魚の品質・量の確保を図ります。また、安心・安全に対応する国際的な認証の取得やHACCP<sup>2</sup>対応型加工施設等の整備を促進します。

⑧ 農林水産業経営のセーフティネット機能の充実

- ・ 農林水産業者の経営安定対策を図るとともに、万が一に備え共済制度や収入保険制度等への加入を促進するほか、災害等の発生時には、必要な支援についてスピード感をもって対応します。

(3) 担い手の確保・育成とライフスタイルをデザインできる働き方の創出

- ・ 農林水産業の魅力や情報を発信し、担い手の確保を図るとともに、経営発展段階や能力に応じた研修などを通じて、認定農業者<sup>3</sup>、認定林業事業者<sup>4</sup>、漁業士<sup>5</sup>など中核的な担い手を育成します。
- ・ 就職を希望する生徒や県外大学進学者等に対して、県内企業についての情報提供を行い、若年層の地域内定着を図ります。
- ・ 地域に貢献し、技術と経営に優れた建設業の育成や建設業に従事する技能労働者の労働環境の改善を促進し、女性や若者など多様な人材の育成・確保を図ります。
- ・ インターンシップなどのキャリア教育や、民間教育訓練機関を活用した職業訓練などにより、ICTやAIなど技術革新に対応可能な人材の確保・育成の促進を図ります。

\*1 TAC制度 魚種ごとに年間の漁獲可能量を定め、水産資源の適切な保存・管理を行うための制度。

\*2 HACCP 食品の製造・加工工程のあらゆる段階で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析し、その結果に基づいて、製造工程のどの段階でどのような対策を講じればより安全な製品を得ることができるかという重要管理点を定め、これを継続的に監視することにより製品の安全性を確保する衛生管理の手法。

\*3 認定農業者 農業者が市町村農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、経営の改善を進めようとする計画を市町村が認定した者。

\*4 認定林業事業者 「林業労働力の確保の促進に関する法律」に基づき、雇用の改善や事業の合理化を一体的に図る為の改善計画を知事が認定した事業主。

\*5 漁業士 地域において意欲的に漁業や漁業加工等に取り組み、中核的な活動をしている青年や漁村青少年の育成に指導的役割を果たしている者として知事が認定した漁業者。

- ・働く意欲のある高齢者や女性、障害者が、能力や経験を生かし、年齢や性差、ハンディキャップに関わりなく働くことができるよう、高齢者や企業等の意識啓発に取組み、雇用環境の整備を促進するとともに、様々な分野で女性リーダーの育成を図ります。

### 3 これからの地域を支える教育・文化・スポーツ

#### (1) 地域を愛し世界に通用する人材の育成

##### ① 知・徳・体の調和のとれた教育の推進

- ・ 道徳教育や本県の自然、地域の伝統文化等を生かした体験活動等を通して豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感、他者を思いやる心などを養い、子どもたちの豊かな心を育みます。
- ・ いじめや不登校、暴力行為等のない学校づくりの推進やこれらに対する相談体制の充実を図るとともに、「人権教育は全ての教育の基本である」という認識の下、自他の大切さを認めることができる子どもたちを育成します。
- ・ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善などを通して、思考力・判断力・表現力等の育成や課題を自らの力で解決していこうとする主体的な態度を育みます。
- ・ 子どもたちが学んでいることと社会とのつながりを意識しながら自分の生き方や働き方について考え、職業観や勤労観を育成するキャリア教育<sup>1)</sup>の充実に努めます。
- ・ 国際化を踏まえた英語教育の充実に加え、環境、福祉・ボランティア、職場体験など社会の変化に対応した教育を推進します。
- ・ ICTを利用したTV会議による合同授業、地区内の他の小中学校との交流学习などへき地<sup>2)</sup>・小規模学校が多い当地域の特徴を踏まえた教育を推進します。
- ・ 生涯にわたって健康な生活を送るために必要な体力の向上や生活習慣の形成、豊かな食文化を生かした食育の取り組みを通じて、健やかな体を育みます。

##### ② 教職員の資質向上

- ・ 全ての教職員が、子どもたちの可能性を最大限に引き出すため、「学び続ける教職員」として自己研鑽に取り組めるよう、個々の課題意識に応じた研修等を充実させ、これからの時代に求められる教職員としての資質能力の向上を図ります。

##### ③ 地域に信頼される学校づくり

- ・ 当地域の優れた知識経験・技術を有する社会人の学校教育への活用や放課後、休日の教育活動への地域住民の参加など、学校と地域が一体となった「地域の中の学校」づくりを推進します。

##### ④ 安全で安心な学校づくり

\*1 キュリア教育：一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

\*2 へき地：都会から遠い、へんびな土地。山間地や離島にみられる交通不便な土地。

- ・ 学校内や登下校時の安全確保を図るとともに、桜島の大噴火等の災害や地域の実情に応じた防災教室や避難訓練等を通じて、子どもたちが自ら危険を予測・回避する能力を育成します。
- ・ アレルギー疾患等の健康課題や新型インフルエンザをはじめとする新たな疾病に適切に対応するとともに、安全・安心な学校給食の確保に努めます。

#### ⑤ 特別支援教育の充実

- ・ 障害のある子どもたちの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実や学習環境の整備とともに、就学前から学校卒業後までの一貫した支援体制の構築など、一人ひとりに応じた自立と社会参加の実現を図ります。

また、鹿児島市南部地域に特別支援学校を開設し、特別支援教育の充実を図ります。

#### ⑥ 郷土教育の推進

- ・ 当地域の豊かな自然、歴史、伝統、文化、産業などを尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養う郷土教育を推進し、これからの社会づくりに貢献しようとする子どもたちを育成します。

#### ⑦ 家庭教育の充実

- ・ 親としての学び、親になるための学びなど、家庭教育を支援するための学習機会や情報の提供、相談体制の充実を図るとともに、家庭教育に関する広報・啓発を推進します。
- ・ 家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭の教育力を高めるため、地域ぐるみで子育てを支援する環境整備を推進します。

#### ⑧ 鹿児島の発展を牽引する人材の育成

- ・ 地域において、異年齢集団での様々な体験活動などを通して、子どもたちの規範意識や協調性を育むとともに、多様性や感受性を養うための取組を推進します。
- ・ 当地域内や本県の産業等についての理解を深め、子どもたちに、一人ひとりが本県の担い手であるという意識を醸成します。
- ・ 青少年の海外交流等を推進し、国際的な視野と先見性、コミュニケーション能力や豊かな感性、主体性を持った人材を育成します。
- ・ 大学など高等教育機関の学生の派遣による学習指導等を通じて、地域と連携した人材の育成を推進します。
- ・ 県民の多様化・高度化するニーズや現代的課題に対応した学習機会の提供を図るとともに、地域社会において学習成果を幅広く活用できる体制づくりに取り組みます。

### (2) 文化・スポーツの振興

- ・ 高校生や大学生と地域住民との交流を通じて、郷土芸能や伝統行事、史跡等の鹿児島の歴史・文化の保存・継承に努めるとともに、これらを生かした地域づくりを推進します。
- ・ 県民の誰もが、それぞれの関心や適性に応じて、生涯にわたり「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる環境づくりに取り組み、ライフ

ステージ等に応じたスポーツ活動を推進します。

- ・ 県民体育大会、県民レクリエーション祭等を開催し広く県民にスポーツを普及して健康増進と体力向上を図り、地域スポーツの振興に努めるとともに、スポーツによる地域づくりに取り組みます。
- ・ 国民体育大会をはじめ、各種の全国大会や国際大会において本県選手が上位入賞できるよう地域内の各種競技団体を支援し、競技力の向上を図ります。

#### 4 地域で誰もが安心して暮らせるための保健・医療・福祉

##### (1) 結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなう社会の実現

- ・ 社会全体で結婚を応援する気運の醸成を図るとともに、結婚を希望する人の出会いのきっかけづくりをサポートする「かごしま出会いサポートセンター」の活用を促進するなど、個々人の結婚への取組を支援します。
- ・ 妊娠・出産に不安や悩みを抱える人への相談窓口の充実・強化を図るとともに、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を実施する子育て世代包括支援センター等の設置を促進します。
- ・ 就労形態の多様化等に伴う様々な保育ニーズに対応するため、乳幼児の一時預かりや、病児保育、ファミリー・サポート・センターの設置など、子育て世帯が利用できる多様な保育サービスの充実に向けた市村の取組を促進します。
- ・ 乳幼児の医療費助成や保育料等の軽減措置などにより、子育て世帯の経済的負担の軽減を図ります。
- ・ 書店、コンビニ等の図書取扱店、ゲームセンター等への立入調査等により、子どもたちにとって健全な社会環境づくりを推進します。
- ・ 小・中・高の児童生徒を対象として、薬物乱用の有害性や危険性についての啓発教育を実施するとともに、地域における青少年を対象とした薬物乱用防止運動等の実施を促進します。

##### (2) 健康で長生きできる社会の実現と良質な医療の確保

- ・ 地域・職域・学域と連携した健康づくりの推進体制の整備と各健康関連団体と連携した普及啓発を図ります。
- ・ 市村保険者による特定健康診査・特定保健指導<sup>※1</sup>を促進し、生活習慣病有病者及び予備群の早期発見と、生活習慣の改善を図ります。
- ・ 本県の安心・安全でおいしい食材を生かした食育や地産地消の取組を推進するとともに、産業界と連携した食環境の整備を図ります。
- ・ 精神障害者の地域移行を推進するため、地域の受入体制の整備促進、精神科医療

---

※1 特定健康診査・特定保健指導：生活習慣病をより効果的に予防する目的で、40～74歳の人を対象に、健診でメタボリックシンドロームを中心にチェックし、生活習慣病発症の危険度により対象者をグループ分けして、危険度に合わせて、受診者自身が生活習慣を変えていけるよう支援、保健指導を行うこと。

機関、その他の医療機関、地域援助事業者、市村などとの重層的な連携による支援体制の構築に取り組みます。

- ・ へき地医療支援機構<sup>※1</sup>、鹿児島赤十字病院等のへき地医療拠点病院、三島村・十島村のへき地診療所の連携強化や、ドクターヘリの運航などにより、離島・へき地医療や救急医療の提供体制の充実を図ります。
- ・ 地域における医療機関の自主的な取組及び医療機関や保険者等の関係者相互の協議を促進し、鹿児島大学病院、鹿児島市立病院等の公立・公的医療機関や医師会との連携を図りながら、バランスのとれた医療機能の分化と連携を推進します。
- ・ 「かかりつけ医<sup>※2</sup>」の普及・定着を推進するとともに、がんや脳卒中などの疾病について、切れ目のない医療サービスを提供する地域医療連携体制を整備します。
- ・ 在宅医療と介護が一体的・継続的に提供される体制の構築を目指した取り組みを推進します。

### (3) 誰もが個性と能力を発揮し活躍できる社会の実現

- ・ 高齢者が、豊富な知識・経験・技能を生かして、地域づくりの担い手として社会参加するとともに、健康づくり、生きがいづくりなどに取り組みめるよう、市村が行う環境整備を支援します。
- ・ 高齢者の身近な通いの場において、住民主体の介護予防活動の展開・充実を図るとともに、高齢者の社会参加を促進します。
- ・ 認知症予防や早期診断・早期対応を促進するとともに、認知症の人と家族への支援の充実を図ります。
- ・ 女性の活躍推進に向けた社会的な気運醸成を図るとともに、働き又は働こうとする全ての女性が、個性と能力を十分に発揮できるよう、働きやすい環境の整備や、結婚、妊娠・出産、育児等で離職した女性の再就職支援を促進します。
- ・ 長時間労働の是正、子育て・介護等がしやすい環境づくりなど働き方改革を進めるとともに、男性の意識改革と家事・育児等への参画を促進します。
- ・ 障害福祉サービス等の提供体制整備の着実な推進とともに、文化芸術活動やスポーツ等を通じた社会参加の促進、県民の障害に対する理解の深化、障害を理由とする差別の解消に向けた取組を推進します。
- ・ 難病<sup>※3</sup>患者や家族に対し、それぞれのニーズに応じた療養生活上の適切な相談支援や特定医療費の支給を行うことなどにより、安定した療養生活の確保と生活の質の向上を図ります。また、難病の医療提供体制の整備を推進します。
- ・ 一人ひとりの人権が尊重される、差別や偏見のない明るい社会の形成に向けて、人権教育、啓発の総合的かつ効果的な推進を図るとともに、人権に関する相談体制

※1 へき地医療支援機構：離島・へき地における医療の充実・確保を図るための各種施策を円滑かつ効率的に実施することを目的として設置。

※2 かかりつけ医：なんでも相談できる上、最新の医療情報を熟知して、必要な時には専門医、専門医療機関を紹介でき、身近で寄りになる地域医療、保健、福祉を担う総合的な能力を有する医師。

※3 難病：①発病の機構が明らかでなく、②治療方法が確立していない、③希少な疾病であって、④長期的療養を必要とする疾病。

の充実を図ります。

## 5 自然と共生した環境・エネルギー

### (1) 豊かな自然との共生

- ・ 豊かな生物多様性を保全するため、県民の参画を得ながら、外来種対策、鳥獣の保護管理、野生鳥獣による農作物被害等の防止・軽減、豊かな森林づくり、里地里山の管理など身近な環境の保全・再生及び自然環境に配慮した公共事業の推進、漂流・漂着ごみ対策などに取り組みます。
- ・ 自然とふれあう体験学習の機会の提供や、その指導者の育成など、環境教育の充実を促進します。
- ・ ジオパーク、国立公園など当地域が持つ特色ある自然環境を生かした地域活性化の取組を促進します。
- ・ 風力、小水力、海流、バイオマスなど、多様で豊かな自然を生かした再生可能エネルギーの導入を促進します。
- ・ 地域の資源を地域で利用する「エネルギーの地産地消」を促進することにより、雇用の拡大や地域の活性化を目指します。

### (2) 地球環境の保全

- ・ CO<sub>2</sub>吸収源対策の一つとして、間伐の実施や保安林等の適切な整備など、地球温暖化防止等に貢献する多様で健全な森林づくりを推進します。
- ・ 森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成を図り、地域住民をはじめ森林ボランティアや企業など、多様な主体による県民参加の森林づくりを推進します。
- ・ 生活環境の保全や自然景観の形成など、県民の生活に密接な関わりを持つ里山林等の整備を推進し、広葉樹林<sup>\*1</sup>や針広混交林<sup>\*2</sup>などの多様な森林づくりに努めます。
- ・ 排出事業者における処理責任の原則の普及啓発を推進するとともに、優良な処理業者の育成及び不適正処理に対する監視指導の徹底を推進し、循環型社会<sup>\*3</sup>の形成を推進します。

---

\*1 広葉樹林：ブナ、クヌギ、ナラ類、クスノキ、サクラなど、扁平で広い葉をもつ樹木で構成されている林。

\*2 針広混交林：針葉樹と広葉樹が混交する森。

\*3 循環型社会：廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正な処分が確保されることによって、天然資源を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会。